

『ガイド・ダレッツォ・コンコルソ』2007年国際作曲コンクール入選

2007年5月にイタリア、アレツォにて開催された「第34回ガイド・ダレッツォ国際作曲コンコルソ (34° CONCORSO INTERNAZIONALE DI COMPOSIZIONE “GUIDO D’AREZZO)”」に、石黒 晶が入選 (Opera segnalata) いたしました。

入選作品は、

A Song of a Weaving Shed – From the Ballad of Miyako Island, for mixed choir with three instruments

です。

コンクール結果は次の通りでした。

Primo Premio: なし

Secondo premio: Marcello LIVERANI (Italy) –ア・カペラ合唱作曲部門–

Opera segnalata: 石黒 晶 (日本) –器楽アンサンブル付き合唱作曲部門–

以下、このコンクールと今回の入選作品についてご案内いたします。

1. 『ガイド・ダレッツォ・コンコルソ』について

欧州六大合唱コンクールの一つとされる『ガイド・ダレッツォ・コンコルソ』は、「国際作曲コンコルソ」「国際ポリフォニコ・コンコルソ」「国内ポリフォニコ・コンコルソ」の三つのコンクールからなる、伝統ある大きなコンクールです。

“ガイド・ダレッツォ”は五線譜の原形を考案し階名唱法「ド (Ut)、レ、ミ、ファ、ソ、ラ」も創案した、中世イタリアの修道士・音楽家として知られています。その偉大な名を冠した“ガイド・ダレッツォ”財団は、教育、出版など合唱に関わるさまざまな事業を永年にわたって展開していますが、その中心となるのはイタリア、アレツォで毎年開催される合唱コンクールです。本年も三つのコンクールが催されていますが、それぞれはさらに下記のいくつかの部門に分かれています。

「第34回国際作曲コンコルソ」 –作曲分野–

1-無伴奏 (ア・カペラ) 合唱のための作曲

2-自由に編成された (1–4人の) 器楽アンサンブルと合唱のための作曲

の編成別の2部門からなる

「第55回国際ポリフォニコ・コンコルソ」 –合唱分野–

キリスト教プレインチャント、ポリフォニー、児童合唱などジャンル別の5部門からなる

「第24回国内ポリフォニコ・コンコルソ」 –合唱分野–

1450–1600年のア・カペラ、古典–ロマン派など時代別の5部門からなる

「第 34 回国際作曲コンクール」の審査員は、イタリア、スペイン、デンマーク、スイス、リトアニア、ベルギーから著名な作曲家ら 7 名が選ばれています。同コンクールの過去 5 年間（2002～2006）の入選者は、イタリア 9 人、スペイン、ドイツ、フランス各 1 人です。作曲分野に限らず、このコンクールは日本からの上位入賞の少ないコンクールです。

“ガイド・ダレッツォ”財団と「第 34 回国際作曲コンクール」の詳細は、下記 HP でご覧下さい。
http://www.polifonico.org/index.php/polifonico_ita_it/notizie/novita/concorso_di_composizione_composition_competition

2. 今回の入選作品について

A Song of a Weaving Shed - From the Ballad of Miyako Island, for mixed choir with three instruments

は、邦題が

混声合唱と三人の器楽のための

機織家（はたいんみゃ）のうた -宮古島の叙事詩による-

という作品です。

宮古島の機織り女“カナガマ”が上布（上級の織物）を織っています。機織家の親方である“上地ぬ主”は、カナガマの仕事のあら探しをして彼女をわがものにしようと言いますが、カナガマはそれに必死に抗って歌います。

曲はカナガマの嘆きの歌から始まり、途中からは上地ぬ主とカナガマの掛け合いの歌に変わります。合唱は時に女声・男声のソロも登場しながら、二人のやり取りを立体的に歌っていきます。そして三人の伴奏楽器は、打楽器（トム・トム）が沖縄音楽の特徴であるオフビート調の軽快なリズムを刻み、ピアノはアクセントと軽やかな音のアラベスクを添え、またシンセサイザーが南島の大気を思わせるハーモニーを響かせます。

かつては沖縄の生活苦の象徴「人頭税」にもなった『宮古上布』。この作品はその上布にまつわる悲歌と言うべきでしょうが、実際の曲調は不思議に明るく、ユーモアの雰囲気を感じさせるものとなっています。

(2007. 6. 11 記)